

あいな 里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～

トピックス

- ヤマモモ収穫祭
- あいなでキノコにタッチ
- ホタル舞う公園
- 公園事務所からのお知らせ

夏のあいさつ

梅雨明けし、真夏へと一気に突入しました。あいな里山公園は、深緑につつまれ、時より吹く風が稲や木々を揺らし、心地よさを感じます。

一方、現場事務所のある「あいな山荘」では、冷房設備がなく30℃を超える室内で、日々暑さと蚊と格闘しています…

ヤマモモの季節も終わり、これからは、マムシやスズメバチが現われます。公園を訪れる方は、十分注意してください。

製作・発行

国営明石海峡公園事務所 神戸地区現場事務所
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字伝庫14
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944
aina@joy.ocn.ne.jp
http://www.kkr.mlit.go.jp/akashi/

ホタル舞う公園 清流のある場所に

夜になると幻想的な光を放つホタル、公園内では木見川で見ることができま



調査のようす(2008.7.5 sat)

7月に行われた「人と自然の博物館」の調査で公園内には「ゲンジボタル」「ヘイケボタル」「ヒメボタル」の3種が生息していることが分かりました。ホタルは、季節や時間帯によって見れる種類が異ったり、幼虫の間しか光らないホタルもいるそうです。



この日の調査は、夜間に行われ、日中では見つけにくい昆虫も観察することができ、調査員の中学生たちは、たくさん採取できたようです。右下の写真は良く知られている「ミヤマクワガタ」中央の写真は「蜂！？」の種類なんです、名前がついていないそうです。左下の写真は「蛾」ですが、この二匹、実は種類が違い、素人には全く区別が付きません：多くの生きものが生息する「あいな里山公園」第一期開園に向け、今後第一期開園に向けて、今後も整備が進んでいきますが、この豊かな里山の自然環境を保全・復元・活用しながら整備を進めていきます。



左：クロメンガタスズメ 右：メンガタスズメ



名前のないハチ



ミヤマクワガタ

公園事務所からのお知らせ



着任のご挨拶

7月1日付けで国土交通省の国営明石海峡公園事務所長に就任しました小島孝文です。

市民団体の方々や公園の開園後に訪れてくださるお客様にいかがが重要と考えています。

私は近畿地方での勤務は初めてですが、オオムラサキ等が生息する里山の豊かな自然環境、相談ヶ辻といった地名などにもみられる長い歴史や文化を有するこのあいなの地で仕事ができることを大変うれしく思っています。

私は、この里山公園で、従来農家の方々が農作業を通して保全されてきた里山環境を都市公園という制度の中でいかに保全・再現していくか、活動されている

国土交通省は、園路や建築物などインフラ部分を公園事業で整備しますが、里山を維持してきた農耕作業などの活動は、市民の方々のご協力が不可欠です。

里山公園は平成24年度中の第一期開園に向けて、今年から耕作楽園地区での活動が本格化しています。皆様とこの里山公園の開園に向けて頑張りますので、よろしくお願いいたします。

国土交通省 近畿地方整備局
国営明石海峡公園事務所
事務所長 小島 孝文
こしま たかふみ
平成20年7月着任

次の発行は9月中旬頃の予定です

初夏の風物詩
ヤマモモ収穫祭



深緑の葉に真紅の実、初夏の藍那を彩るヤマモモ。今年は真つ赤で大きな実を園内の至る所で見ることができました。

このヤマモモ収穫祭とアングルの演奏・体験会のイベントが7月13日(日)、この日が正式なお披露目となる「市民交流民家」で行われました。

まだ梅雨が明けない季節に実を付けるヤマモモ、市場ではあまり出回らないため、毎年イベントの人気は高く、50名を超える参加者が、あいな里山公園に集まりました。

収穫の前に、藍那におけるヤマモモの歴史や、地域とヤマモモとの関わりなどの説明を受けました。ヤマモモは、水分が多く痛みやすいため、手でそつと外し、籠に丁寧に入れて収穫するのですが、今回はその日のうちに食べていたため、木を揺すり多く収穫することにしました。

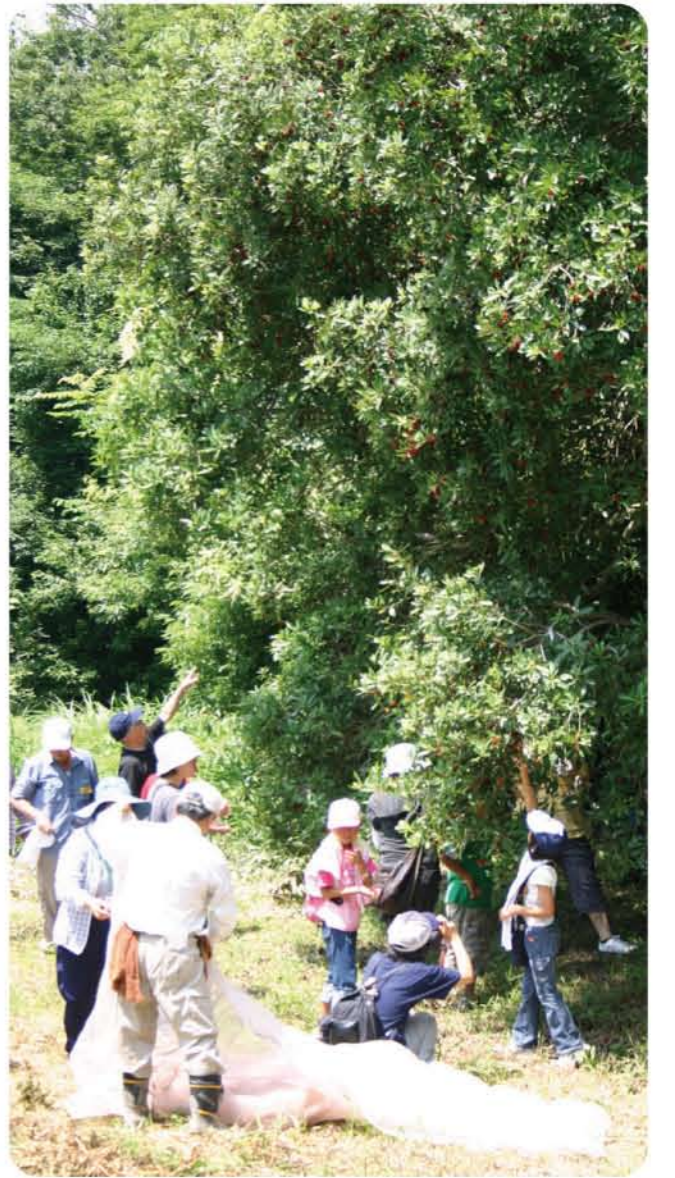


収穫のようす(木を揺すり実を落とします)

昼食には、藍那で取れた里の恵いっばいの「里山カレー」が振舞われ、その後プレゼントガーデンによる♪アングルの演奏会♪アングルは、誰でも簡単に演奏できる楽器で、参加者にも配られ、ワークショップも開催されました。竹の奏でる自然な音色が里山の空間にとてもマッチし、心地よく鳴り響いていました。



NPO法人 present garden toによるアングル演奏



あいなでキノコにタッチ!
兵庫きのこ研究会



セミの声も盛りに入った7月26日、キノコ観察イベントが行われました。今年梅雨明けが早く、7月の雨量も記録的に少なかつたため、キノコが見つかるのか?という心配もありながら開催でした。

観察のまえに、キノコの見分け方や部位の名称、採取の方法などについて説明を聞き、観察場所へ向かいました。



観察会のようす

地際をじっくりと見ながら歩くと、当初の心配はなんのその、様々な種類のキノコが見つかりました。キノコを発見するたびに大人も子どもも夢中になってカメラを向けたり採取をしていました。よく知られているようにキノコの中には有毒の種類も多く、有毒のキノコを採取する際は少し緊張気味のようでした。

ところで「キノコ狩り」という言葉は耳にしますが「キノコ採り」と言う言葉は耳にしません。というのも、キノコは植物のように同じ場所に生育するわけではなく、生えたと思えば消え、また別の場所に生えるなど、動物の動きに似ているため「キノコ狩り」というそうです。森での観察後、市民交流民家では、縁側に集めたキノコを広げ、じっくりと観察しました。形、色、大きさは様々で、専門家でも同定し難い種類も少なくないんだとか。観察会の最後は、森の中におけるキノコの役割などの話を聞きながら、あいな育みの会(あいな茶屋)のお弁当をいただき、暑い中でのキノコ観察会は終了しました。



キイロイグチ

夏から秋にかけてアカマツやコナラなどの混生林に生えます。全身が黄色いため、林の中でもよく目立ちます。触ると手が黄色くなり、なかなかとれません。傷をつけたりすると青変します。無毒で食べられるそうですが...



市民交流民家の縁側で